



人と社会と農業を「産業」という視点で切り取るスダチ香る研究室

生物資源産業学部 中澤慶久（なかざわよしひさ） 研究室

「農産物はマーケティングが最も重要。売れなければ産業として成り立たない。では、売れるためにはどうするのか、売るための手段がどうなっているのか、生産者がどういう思いで携わっているのか、加工品も含め、生産の入口から出口までを細かく調べるのがこの研究室の目的です」という中澤先生。

その答えを求めて、農家や生産者、食品メーカーなど、ありとあらゆるところへ出向き、ヒアリングを行う学生たち。その年々でテーマは異なるのですが、今年度、特に力をいれているのが徳島の特産品、スダチに関するリサーチです。

徳島＝スダチのイメージが定着していますが、年々消費量も生産者も減少しています。これまでの調査からこのまま進めばデータ上、2050年頃には栽培も流通もゼロになると予測。この状況を踏まえ、中澤さんは一軒一軒農家を回り、経営実態を調査しています。



研究室はスダチのいい香りが。卒業後の進路は全農や県庁、化粧品メーカーなど。就職先を考慮し、卒業後の仕事と直結したテーマを担当できるよう、配慮されているのもこの研究室の特長です。

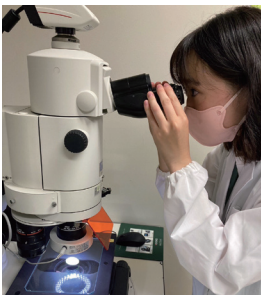


◎ナビゲーター

生物資源産業学部 生物資源産業学科 生物生産システムコース 4年生 中澤研究室のみなさん

各自が撮ったベストショットと共に研究内容について紹介します。

果実、残渣、品種別スダチに含まれる精油の違い 元田 帆南（もとだほなみ）



スダチを搾汁したあとの残渣は7割にも及びます。これを有効活用することで、SDGsや生産者の収入UPに繋がればと、残渣から精油を抽出し、活用したいと考えています。スダチの横断面に見える油腺を数えることで、精油の生産量が分かるため、顕微鏡観察を中心に、果実と残渣で精油の量がどの程度違うのか、精油が多く採れるのはどの品種かなど、実験を続けています。

スマート農業における農業生産資源の高騰問題 足立 悠里（あだちゆうり）



生産者が高齢ということもあり、AIや機械の導入に抵抗感のある人が多く、機材の導入費用も高額なため、他県に比べてスマート農業の導入率が低い徳島県。農家さんへのヒアリングの他、最新機器や導入後にかかる燃料費や維持費についての情報も得ようと、幕張メッセで行われた農業EXPOも視察し、様々な角度から生産者を取りまく状況について調べています。

種ごとに、どれが多く抽出できるか、搾汁後の残渣も含め、精油の生産性を調査中。古木を入れ替える際の参考になるよう、データを集めています。

精油は化粧品などにも活用が見込めるのですが、6次産業化に成功しているユズを参考に、加工や販売に関する先進的な取り組みを調査している山下さん。高知県の馬路村農協、れいほく農協などへも泊まり込みで行ってきました。

足立さんはスマート農業を研究テーマに、燃料の高騰を抑えるため、太陽光パネルを導入し、新たなスタイルで挑戦する農家にも取材しました。

農業を取り巻く社会全体を捉えて、より良い方向へ進むためにはどうすればいいか、答えのない世界の答えを求めて、奔走する研究室のみなさん。得られた結果は、調査に協力してくれた人達へも共有し、どうすれば課題解決に繋がるか、さらに議論を深めていきたいといいます。

スダチ生産農家の農業経営と実態

沖野 有希（おきの ゆうき）



スダチの生産と栽培面積は1980年から右肩上がりだったのが、1990年頃から下がりはじめ、温暖化や後継者不足もあり、下降速度はさらに早まる可能性も。スダチは半数以上が青果で流通しているのですが、最近、加工率の高いカボスに追い越されました。生産量、流通量の減少が続く中、スダチ＝徳島というブランドをどう考えていくか、大きな課題だと感じています。

スダチ商品の市場調査

高橋 舞（たかはし まい）



お菓子や飲料、お酒、調味料などスダチと名のつく商品を、すべて写真に撮って、店舗ごとに個数を確認。どこに陳列されていたかにより、販売個数が予測できるので、販売価格と合わせて分析し、売れ筋についても調べています。最終的なデータをメーカーへも提供し、同じような商品の乱立を防ぎ、スムーズな消費行動が行われるよう、提案できればと考えています。

国内産ユズを用いた高度6次産業化の取り組みに関する考察

山下 泰穂（やました やすほ）



高知県へ何度も泊まりがけで調査へ行き、中でも嶺北地域は生産者の高齢化が進んでいますが、収穫したユズの約6割が海外へ輸出され、海外での反響が大きいことに可能性を感じました。生産、加工、販売まで熱意を持ってチャレンジしている人が多く、将来、マーケティング戦略などに関わる仕事をしたいと思っていたので、そうした人との出会いが大きな糧になりました。

中澤研究室の取り組みは2022年8月、全農徳島県本部と徳島県庁、徳島大学の包括連携協定に繋がりが、スダチの総合的な研究への追い風となりました。それぞれの研究結果、とても楽しみです。